

## 担い手の確保・育成による果樹産地の維持発展

### 現状と課題

- 仙南地域は果樹生産が盛んで、県全体の産出額 26 億円のうち、半数の 13 億円を占める。中でも、日本なしは、県全体の栽培面積 152ha のうち 84ha と県内一の産地である。
- しかし近年は、果樹生産者の高齢化や担い手不足による廃園や管理不十分となった園地の増加など、産地の維持が困難。
- ここ数年、親元就農による新規就農者が数名おり、同世代の後継者との交流や技術支援が要望されている。
- 今後、果樹産地を維持し生産振興を図るためには、核となる若手果樹生産者の育成と後継者不在の果樹園における円滑な事業継承などの体制整備が課題となっている。

### 活動項目



J Aみやぎ仙南蔵王梨選果場  
光センサーによる選果

- 担い手確保に向けた関係機関との連携検討
  - ・ 市町やJ A果樹部会との連携
  - ・ 園地の維持管理に関する農家意向調査
  - ・ 若手生産者の育成に取り組む先進地事例調査
- 若手果樹生産者における栽培技術の習得、向上
  - ・ 適正な病虫害防除やせん定に関する現地検討会
  - ・ 優良な果樹生産農家への視察研修

### 得られる成果

- 若手果樹生産者における基礎的な知識と技術の習得と農家同士の連携構築。
- 果樹産地の維持に向けた市町や農家が一体となった体制づくり。

## 新しい生産技術の導入によるいちごの産出額向上

### 現状と課題

- 部会員全員が光合成促進を意識してハウス内環境を適正に管理する増収技術を取り入れるようになった。今後は技術レベルの向上と定着、周辺地域への普及が課題である。
- 省力・軽労化、大雨対策技術として不耕起栽培、育苗様式改善の取り組みが進んでいる。今後部会内で改良と定着を進め、このような技術を生かした産地の維持・発展が課題。

### 活動項目

- **環境制御技術のレベル向上と定着支援**
  - 技術定着に向け取り組むべき技術項目の整理
  - 技術レベル向上に向けた講習会、現地検討会、個別巡回指導実施
  - 対象個々の技術定着に向けたコンサルティング
- **省力・軽労化、大雨対策技術の定着支援**
  - 技術の改良と定着支援
  - その他の省力・軽労化技術導入および技術向上支援
- **周辺地域への普及拡大活動**
  - 管内他地区いちご部会、栽培者への普及指導



周辺地域 特に昨年台風被害が大きかった角田市、丸森町等  
技術普及を図り収量向上による所得向上を支援する



部会活動を支援し、部会内における  
技術改良、レベル向上、定着を図る

### 得られる成果

- 光合成促進を意識してハウス内環境管理を行う収量向上技術が部会内に定着する。
- 省力・軽労化、および災害対策技術が定着し産地維持、発展の意識が上がる。
- 管内の他地区部会へ技術普及が期待される。
- 令和3年産栽培 JA 共販金額 1億円の達成

## 機械化一貫体系の導入によるたまねぎ産地の拡大

### 現状と課題

- 管内では数カ所で農地整備が計画、実施されており、事業導入に伴うたまねぎの作付けが推進されている。
- 令和元年度には JA みやぎ仙南たまねぎ部会が設立され、国庫事業を活用した作業機械と出荷調整設備が整備された。
- しかしながら、天候不順やほ場環境の影響で作柄が安定しないこともあり、作付面積が伸び悩んでいる。
- 生産者の技術レベルや作型毎の生育差により、収量品質にバラツキがあり、産地として収量や品質の安定化に取り組む必要がある。
  - ・ 作付面積(R2 実績：6.3ha, R3 予定：6.3ha(目標：20ha))
  - ・ 反収(R2 実績平均)：約 2.4t/10a

### 活動項目



定植機による定植共同作業

- 展示ほの設置運営と現地検討会などの実施による基本技術の習得
- 部会活動の活性化と定期的な情報交換会の開催による営農意欲の向上
- 産地拡大に向けた大規模な経営体に対する作付誘導支援

### 得られる成果

- ほ場環境の改善が進み、作型毎の栽培技術の向上により収量品質の安定が図られる。
- 機械化を進めることで省力化と生産性の向上が図られる。
- 大規模な生産者が確保され産地が活性化する。